『御製人臣儆心録』

－「好名論」・「營私論」・「狥利論」－

石　橋　崇　雄

＊本稿は別稿「『御製人臣儆心録』－「植黨論」－」(『人文学会紀要』第42号、79～91頁、国士舘大学文学部、2010〈平成22〉年3月）の読解作業に接続するものであり、清朝史における歴史上の問題ならびに『御製人臣儆心録』の意義・凡例等についてはその別稿を参照していただきたい。

……

(／Ⅸ a－2) gebu de amuran be leolehengge.　(2／)
名に執着することについて論じたこと。
(／Ⅵ a－6) 好名論 (6／)

(／3) yaya amban oho urse, yargiyan tusa be wesihuleci (3／4) acambi.　untuhun gebu be kiceci acarakū.
凡そ臣になった者たちは実益を貴ぶべきである。虚名に功を求めるべきではない。
(／Ⅵ b－1) 凡爲臣者、宜崇實效。不宜務 (1／2) 虚名。

gebu be (4／5) kicere urse, terei yabun urunakū holo terei gūnin (5／6) urunakū deleri.　unenggi emu erin i algin maktacun be (Ⅸ a－6／Ⅸ b－1) baici, gisun baita de acanara acanarakū be (1／2) tuwarakū kai.
名に功を求める輩は、その行いが決まって偽りであり、その考えが決まって勝手である。実際、一時の名声や称賛を求めれば、意見や務めに対する当否が見えなくなるぞ。
務名者、其行必矯、其意 (2／3) 必浮。苟取一時之聲稱、而其 (3／4)、言與事之當否弗顧也。

terei mujilen be feteme kimcici bi (2／3) gisun de tucibufi, baita de yabubufi, damu (3／4) mini gūnin be tuwabure.　mini gebu be hūwašabure (4／5) oci wajiha sembi.
その心をみつめて窮極まで判っていれば、自ら意見として出し、務めとして行なっ

たことで、ただ自分の考えを示し、自分の名を成せば、充分に完結したということである。
推原（4／5）厥心、以爲吾發之於言。擧之（5／6）於事。但可以見吾志、成吾名、（Ⅵb－6／Ⅶa－1）足矣。

urunakū selgiyeme yabubuci（5／6） ojoro, ojonakū enteheme ojoro be,（Ⅸb－6／Ⅹa－1） gemu ejen de anafi, i darakū.
必ず命令して行わせることができるか否かは永えに続くことであるから、みな君上［ejen］に託して、その者は関与しない。
至於必可見之施行、必（1／2）可垂之永久者、則皆貽之君（2／3）上、而彼不與。

niyalma tome gemu（1／2）gebu de amuran mujilen be jafaci, gurun boo i（2／3）yargiyan baita, geli we de akdambi.
一人一人がみな名に執着して心を奪われれば、国家の真の政務は、一体誰に頼るのか。
夫使人人盡懐（3／4）好名之心、則國家之實事、又（4／5）將誰倚。

jirgara（3／4）joboro de dalji akū. uthai cin i ba i niyalma.（4／5）yowei ba i niyalmai tarhū turha be tuwara（5／6）adali, mujilen de umai herserakū. ere ambula（Ⅹa－6／Ⅹb－1）tondo akūngge wakao.
何もしないで過ごすことを憂えるのとは全く別にあり、ちょうど秦の地にいる者が越の地にいる者の肥えた、瘠せたを見るようなもので、心に全く留めない。これは甚だひどい不忠ではないか。
爲戚爲休、不相關切。（5／6）如秦人視越人之肥瘠、漠然（Ⅶa－6／Ⅶb－1）無所動其心。豈非不忠之大（1／2）者哉。

gūwa hendume, kungdz i（1／2）henduhengge, ambasa saisa, jalan wajitala gebu（2／3）algindarakū be nasambi sehebi.
別に説くのに、孔子が語ったこととして、「君子は、この世の生を終えるまでに名誉を興さないことを嘆き惜しむ」と。
或曰、孔子曰、「君子疾没（2／3）世而名不稱。」[1]

gebu inu niyalma i（3／4）amuran oci acarangge kai. unenggi gemu gebu de（4／5）amuran akū, erdemu be efuleme kemun be（5／6）dabame, targara be sarkū ohode, ele gelecuke（Ⅹb－6／Ⅺa－1）

akūn.
名も亦、人の執着するものというべきであるぞ。実際みな名に執着せず、徳を壊し規範を越え、戒めを理解しなくなることにでもなれば、全ての懼れるべきものは無くなってしまうのか。
名亦人所宜尚（3／4）也。苟盡不好名、將敗德踰閑、（4／5）罔知所忌、不更可懼乎。

hendume tuttu waka. erdemu be efulere（1／2）kemun be dabara urse, emu inenggi jalan de（2／3）bici ojorakū. aiseme dabufi gisurembi.
言いたいことは、そうではない、ということである。徳を壊し規範を跳び越える輩は一日のもので、時代としてあることはできない。どのように言えば勘定に入れて語れよう。
曰、不(5／6)然。夫敗德踰閑之徒、乃不可(Ⅶ b－6／Ⅷ a－1)一日容於世者也。烏足道哉。(1／2)

gebu de（3／4）amuran akū serengge yargiyan be cohofi（4／5）hūsutuleme, gurun de tusa obure be kai.
名に執着しないという者は真実を見極めた上で尽力し、国に利益をもたらすことになるぞ。
所謂不好名者、令其專力於（2／3）實、以期有濟於國耳。

aikabade（5／6）yargiyan be akūmbufi gebu dahalaci. tere gebu（Ⅺ a－6／Ⅺ b－1）untuhun gebu waka, inu ambula sain wakao.
もしも真実に心を尽くして名を後に従わせるならば、その名は空しき名でなくなり、これこそ甚だしく素晴らしいものではあるまいか。
使實至（3／4）而名從之、則名非浮名、詎不（4／5）甚美。

damu（1／2）emu gūnin i gebu be kiceme, yargiyan be gūnirakū（2／3）oci, gisun udu tob de hanci gese, baita（3／4）udu giyan de hanci adali bicibe, gemu ainaha（4／5）seme yabubuci ojorakū. ainaha seme goidaci（5／6）ojorakūngge kai.
ただ一心に名に邁進し、真実を考慮しないならば、言葉がどんなに実直に近いものであろうとも、政務がどんなに道理に近いものであろうとも、どれも断じて行なうべきではないし、断じて長引かせるべきことではないぞ。
惟一意於好名、而不顧(5／6)其實、則雖言若近正。事若近(Ⅷ a－6／Ⅷ b－1)

理、皆斷不可行、斷不可久者（1／2）矣。

tuttu ofi gebu de amuran（XI b－6／XII a－1）mujilen i ejen be weileci, aisilara wehiyerengge（1／2）urunakū unenggi akū.
この故に、名に執着する心で君主［ejen］に仕えるならば、補佐して助けることが必ずや誠でなくなる。
是故、以好名之心事主、則（2／3）輔佐必不誠。

gebu, dahame acabumbi（2／3）sere gojime, yargiyan i dahacara haldabašara be（3／4）dolori miyamimbi.
名は、後につき従うべきというだけで、真実の方が擦り寄って媚を売るのをひそかに粉飾して隠してしまう。
名爲將順、而實（3／4）則陰飾依阿。

gebu, tuwancihiyame tohorombumbi（4／5）sere gojime, yargiyan i dacun sijirhūn be tuleri（5／6）uncambi. gebu de amuran mujilen i niyalma be（XII a－6／XII b－1）baitalaci, tukiyere unggirengge urunakū giyan（1／2）akū.
名は、歪みを直し安心させて撫育するというだけで、真実の方が才ある正直さを外に売り渡してしまう。名に執着する心で人を用いるならば、登用することや職から外すことが決まって道理に合わなくなる。
名曰勖勳、而實（4／5）則外沽侃直、以好名之心用（5／6）人、則擧錯必不當。

terei saišame wesimburengge, bardanggi（2／3）oilohon urse. ashūme wasimburengge nomhon（3／4）ujen saisa.
その推奨し昇進させる者は、他人よりも勝っていると自負する軽率で浮かれた輩であり、追い払って降格させる者が、真面目で重厚な賢者なのである。
所奬進者、（VIII b－6／IX a－1）炫燿浮華之輩。而擯抑者、淳（1／2）樸厚重之儒。

gebu de amuran mujilen i gisun be（4／5）wesimbuci, tucibure alarangge urunakū tondo（5／6）akū.
名に執着する心で進言すれば、その建議は必ずや公平でないものになる。
以好名之心進（2／3）言、則建白必不純。

embici songkolome leoleme unenggi mujilen ci（XII b－6／XIII a－1）tucikengge waka.

もしかすると、ただ従うだけの談論に終始し、本当に心から出たものではない。
或附於雷（3／4）同、而非本肺腑。

embici murime fafuršame beye be（1／2） emhun wesihun sembi.
もしかすると、意地を張って奮い立ち、己を孤高という。
或出於矯激、（4／5）而自命孤高。

gebu de amuran mujilen i irgen be（2／3）dasaci. gosire ujirengge urunakū hing seme（3／4）akū.
名に執着する心で民を治めれば、慈しみ養うことが必ずや心を籠めたものではなくなる。
以好名之心治（5／6）民、則愛養必不篤。

emu aisi be yendebure de, embici gebu（4／5） sain bime, yargiyan i fudasihūn.
一つの利を興すのに、もしかすると名は素晴らしいのに、真実は逆になる。
興一利、或（Ⅸ a－6／Ⅸ b－1）名美而實背。

emu jobolon be（5／6）geterembure de embici gebu unggimbime yargiyan i（Ⅻ a－6／Ⅻ b－1） bibumbi.
一つの憂患を除くのに、もしかすると名は去らせているのに、真実は留まっている。
除一害、或名去（1／2）而實存。

gebu de amuran mujilen i yabun be dasaci,（1／2） feliyere yaburengge urunakū tondo akū.
名に執着する心で行ないを取り繕うならば、実践することは必ずや公平でないものになる。
以好名之心飾行、則（2／3）踐履必不端。

embici（2／3）muwa buda, manaha etuku i bolgo be algimbumbi.（3／4）
あるいは粗末な食事や破れた衣服によって清廉さを鳴り響かせる。
或糲食敝服、以（3／4）鳴其廉。

embici nomhon arbun, šumin gūnin i funiyagan be（4／5）

miyamimbi.
あるいは真面目な容貌や深い思いによって度量を取り繕う。
或厚貌深情、以文其（4／5）度。

tere jalan be holtome algin be（5／6） hūlhame, gūnin be gidame maktacun be bairengge. （XIII b－6／XIV a－1）
それは世を偽り、名声を盗み、思いを隠し、称賛を求めることである。
彼將以欺世盗聲、匿情干（5／6）譽。

emu inenggi weile tucike de bengsen encehe（1／2） wacihiyame mohofi dele urunakū ejen de waliyabumbi.（2／3） fejile urunakū gucu de ashūbumbi.
一日でも罪が現われたことで技量や才能は悉く枯渇して、上は必ずや君主［ejen］に棄てられるし、下は必ずや朋友に突き放される。
而一朝敗露、伎倆畢窮。上（IX b－6／X a－1）必見棄於君。下必見絶於友。（1／2）

wang yan,（3／4） in hoo i jergi urse uthai genggiyen buleku kai.（4／5） erei teile waka.
［晋の］王衍や殷浩のような者たちは、すなわち明らかな鏡としての証であるぞ。これだけというわけではない。
如王衍、殷浩之流、其明鑒也。（2／3）不特此也。

gebu de amuran jemden be（5／6） badarambuha de, urunakū hoki jafame tukiyeceme （XIV a－6／XIV b－1） temšeme, jobolon be tutaburengge šumin goro（1／2） ombi.
名に執着する弊害を拡大させたことにより、必ずや党を立てて牛耳ることを誇らしげに競って争い、憂患を後に取り残らせることは、より深刻になり、長期にわたらせてしまう。
充好名之弊、必黨（3／4）比矜爭、貽害深遠。

dergi han gurun i li ing, siyūn ioi（2／3） jergi urse, sain be saišame, ehe be ibiyame,（3／4） ishunde temgetuleme maktame, gu, cu, jiyūn, gi sere（4／5） gebu be ilibufi, mekele beye be tuhebufi jalan de（5／6） tusa oho akū.
東漢の李膺や荀昱のような輩は、善を奨励し、悪を嫌い、互いに善行を記して称

揚し、顧・厨・俊・及という名を立て、空しく身を落として世に裨益することはなかった。
如東漢李（4／5）膺・荀昱等、徒以善善悪悪、更（5／6）相標榜。立顧厨俊及之名、至（Ｘａ－６／Ｘｂ－１）隕其軀、無裨於世。

ese gemu saisa bime, gebu de (XIV b－6／XV a－1) amuran jemden de hono uttu oho bade, yargiyan (1／2) tusa be wesihulerakū, jing untuhun gebu be (2／3) kiceme, dergi de oci ejen be sartabure. (3／4) tulergi de oci jalan be sartabure. dorgi de (4／5) oci beye be sartabure urse be ai hendure. (5／6) ai, targaci acambi kai. (XV a－6／)
この輩はみな賢者であるのに、名に執着する弊害によって、なおかつこのようになったもので、実益を尊ばず、まさに虚名に励み、上に対しては君主［ejen］を誤らせ、外に対しては世を誤らせ、内に対して身を誤らせる輩については、どのようにでも説き、どのようにでも戒めるべきであるぞ。
此其人皆（1／2）賢者、而好名之弊、尚至於斯。（2／3）況夫不崇實效、純務虚名。上（3／4）則誤君、外則誤世、内則誤身（4／5）者乎。於戲、可戒也已。（5／）

……

（／XV b－1）cisu be kicere be leolehengge. (1／)
自分勝手に暴走することについて論じたこと。
（／Ｘｂ－６）營私論（６／）

（／2）abka na cisu akū ofi umesi tondo be (2／3) mutebuhebi. han niyalma dahame abkai fejergi be (3／4) dasambi.
天地は、私心がないことによって、この上ない公平さを成し遂げてきている。人君［han niyalma］は、これに遵って天下を統治する。
（／XI a－1）天地以無私成其至公。人君（1／2）奉之、以馭天下。

tuttu urgun jili de haršakū akū. (4／5) erun šang be urunakū teisulembi.
故に喜怒に偏りがなく、刑賞は必ず妥当なものとなる。
故喜怒無毗。（2／3）刑賞必當。

amban oho (5／6) niyalma, cisui mujilen be hefeliyefi, beyei gūnin de (XV b－6／XVI a－1) acabuci ombio.

臣となった者が自分勝手な心を胸中に抱いて、自己の思いに合致させることなど、できるであろうか。
況爲人臣者、而可（3／4）懐私心以自遂乎。

cisu, kemuni emu gūnin i ser（1／2）sere ci dekdembi.
私心とは、常にある思いの微細なことから湧き起こる。
夫私、毎起（4／5）於一念之微。

jobolon urunakū abkai fejergi（2／3）amban de isinambi. targarakū oci ojorakū.（3／4）
禍は必ず天下の大なる事に到る。戒めなければならない。
而害必及於天（5／6）下之大、不可以不戒也。

adarame seci, niyalma cisu akū oci, terei（4／5）bodohon genggiyen, terei tuwakiyan akdun, terei（5／6）doro necin, terei mujilen sulakan. ai erdemu（XVI a－6／XVI b－1）hūwašarakū. ai gung ilirakū.
どのように言えば、人は私心がなくなり、その思索が清明になるのか。その見詰めるものが堅固になるのか。その道理が平らかになるのか。その精神が穏やかになるのか。どのような徳目が成就しないのか。どのような功労が成立しないのか。
何也。（XI a－6／XI b－1）人惟無私、則其識明。其守堅。（1／2）其道平。其衷坦。何德不成。何（2／3）功不立。

aikabade majige（1／2）cisu bihede, udu niyalma ci duleke erdemungge（2／3）seme, cisu de gidabufi, gemu beye tucibume（3／4）muterakū.
かりに些細な私心であったとして、人よりも優れた有徳の者であると雖も、私心に掻き乱されて、みな自分で自分を抜きんでた者にすることはできない。
苟一有私、則雖有過（3／4）人之才、爲私所撓、而皆不能（4／5）以自見。

baita be ucaraha de, yabuci acara be（4／5）getuken sambime, embici beye de tusa akū seme（5／6）nakambi.
事に出会った際に、行うべきことをはっきりと知りながら、あるいは自分に利益がないということでやめる。
其遇事也、明知爲當（5／6）行者、或以不便於己而已之。（XI b－6／XII a－1）

yabuci acarakūngge be, geli turgun be (XVI b − 6／XVII a − 1) getuken sambime, damu beye de tusa seme urunakū (1／2) yabumbi.
行なうべきではないことについても又、事情をはっきりと知りながら、ただ自分に利益となるということだけで必ず行う。
及不當行者、則又明知其故、(1／2) 第以有便於己而必行。

tuttu gūnin seolen hūlhi farhūn, uru (2／3) waka ucubume farfabufi, tulergi de geren i (3／4) leolen ci fudaracibe, dorgi de kemuni tuwašatara (4／5) hoilacara gūnin be hefeliyembi.
故に思慮が愚昧で無知蒙昧となり、是と非が混沌として乱雑になって、外に対しては与論から背逆していようとも、内には常に援助についてあれこれ考える思いを深く抱いている。
因之 (2／3) 意慮昏懵。是非淆亂。外拂乎 (3／4) 輿論、而中常懷夫瞻顧之思。(4／5)

tob niyalma be (5／6) dosimbure, tob gisun be tucibure, tob doro be (XVII a − 6／XVII b − 1) yabubure be erehe seme bahambio.
正しい者を招き入れ、正しい言葉を陳べ、正しい道理を行なうことを望んだとしても得られようか。
欲望其進正人、陳正言、建正 (5／6) 業、豈可得哉。

tuttu ofi (1／2) cisu be kicere niyalma, mujilen be šumin somifi, (2／3) šolo be tuwafi tucibumbi.
この故に自分勝手に暴走する者は、心を深く隠して、すきを見て動き出す。
是故營私之人。(XII a − 6／XII b − 1) 深藏厥心、乘間而發。

kemuni tob (3／4) ambalinggū gisun leolen de anagan arafi, ini (4／5) somishūn haksan arga de tusa obume, niyalma be (5／6) arga de tuhenefi ulhirakū okini seme jabšan (XVII b − 6／XVIII a − 1) baimbi.
常に正しく尊大な言葉や議論を口実にかりて、その隠した陰険な謀略によって利益をなし、人を陰険な謀略によって落としても悟られないようにしたいという僥倖を求めている。
往往假 (1／2) 正大之論議、濟其陰險之謀。(2／3) 以幾倖於人之墮其術中而 (3／4) 不覺。

geli dabahangge, cisui mujilen i baita be (1／2) yabubume. tulergi

be kimcici, inu tob niyalma (2／3) ambasa saisa i yabun i adali.
また甚だ度を越していることには、私心によって事を行ないながら、その外面を詳細に調べても亦、正しい者や君子の行ないと同じようなのである。
甚則以彼私心、措諸行（4／5）事。跡其外、亦似正人君子之（5／6）所爲。

butu farhūn i (3／4) dolo, kemuni hutu enduri de tuwabuci, abka, (4／5) na de alaci ojorakū.
真っ暗で見えない中では常に、鬼神に出くわして訴えても天地に告げることはできない。
而曖昧之衷、常不可以（XII b－6／XIII a－1）質鬼神而告天地。

tereci gurun booi tob (5／6) baita be amala obufi, beyei tusa be (XVIII a－6／XVIII b－1) faššara be nendembi. duin hošo be gūnirakū (1／2) bime, kemuni juse omosi jalin ebšeme bodombi. (2／3)
それから国家の正しい政務を後に回して、自分の利益に尽力することを優先する。四方については考慮しないのに、常に子孫らのためには大至急で画策する。
於是後國（1／2）家之正務、而先便身圖。慮不（2／3）及於四方、而常急爲子孫之（3／4）計。

jai aika yarume baitalara ba bihede, tere (3／4) niyalmai mergen mentuhun, erdemungge, erdemu akū be (4／5) dacilarakū, damu cisu be tuwambi.
またあるいは登用するところがあっても、その者の賢い、愚昧、有能、無能を問いただすことはなく、ただ私事を見る。
至或有所汲引。則不問其（4／5）人之賢與愚、才之能與否、而（5／6）惟私是視。

terei (5／6) gosime saišara niyalma, urunakū dosholome (XVIII b－6／XIX a－1) haršarangge. akūci inde baili bisirengge, (1／2) akūci elbime jibufi mujilen niyaman obuki serengge. (2／3)
その気に入って推挙する者は、決まって寵愛し依怙贔屓した者である。そうでなければ、かの者に恩が有るところの者である。そうでなければ、招き来させて腹心にしたいという者である。
所愛且譽者、必其（XIII a－6／XIII b－1）比昵者也。不則有恩於彼者（1／2）也。不則欲招致之、以爲腹心（2／3）者也。

terei ibiyame wakašara niyalma, urunakū goro (3／4) aldanggangge,

akūci inde kimun bisirengge. (4／5) akūci gung gebu erdemu algin beye ci wesihun (5／6) ofi ashūme bošoki serengge.
その嫌って非難する者は、決まって疎遠になる者である。そうでなければ、その者に怨みが有るところの者である。そうでなければ、功名や才能の名声が自分よりも上であるために排除し駆逐したいという者である。
所憎且毀者、必其疎遠 (3／4) 者也。不則有怨於彼者也。不 (4／5) 則勲名才望、出於己右、而思 (5／6) 所以排擠之者也。

cisui mujilen ci (XIX a－6／XIX b－1) tucike turgunde, tuttu buyere ibiyara (1／2) saišara wakašarangge, fudasihūn murishūn ohongge (2／3) uttu.
私心から出た事情によってそのように、気に入る、嫌う、推奨する、非難することが相反して不公平になることは、この様なのである。
夫惟出於 (XIII b－6／XIV a－1) 私心。故愛憎毀譽、垂謬若此。(1／2)

tang gurun i li lin fu, jang gio ling, (3／4) li ši jy, lu hiowan be ibiyame, tanggū hacin i (4／5) arga i dorgideri beleme, unggihe manggi teni (5／6) selahabi.
唐の李林甫は、張九齢・李適之・慮絢を忌み嫌い、百種類の謀略で内密に誹謗し、追放した後、この上なく快いとしたのである。
如唐之李林甫、忌張九齢・李 (2／3) 適之・慮絢、則百計陰悒、去之 (3／4) 而後快。

wang gung, gi wen, lo hi ši be (XIX b－6／XXa－1) saišame, yarume oyonggo bade sindafi, tob (1／2) niyalma be ashūme gidahabi.
王鉷・吉温・羅希奭を推奨し、登用して要所に置いて、正しい者を排除し抑えつけたのである。
喜王鉷・吉温・羅希奭、(4／5) 則引置要地、以排抑正人。

ai, li lin fu, gurun i (2／3) toose be jafahangge. wesihun akū seci ojorakū. (3／4)
ああ。李林甫は国の権力を掌握した者であり、身分が高くなかったと言うことはできない。
嗟乎。林甫、秉國之鈞、不可謂不 (XIV a－6／XIV b－1) 尊。

juwan uyun aniya ohongge, goidahakū seci (4／5) ojorakū. alban i

jaka be šangnahangge jiramilahakū (5／6) seci ojorakū.
十九年間であったことは、長い時間でなかったと言うことができない。貢ぎ物を賜ったことは、優遇しなかったと言うことができない。
十有九年、不可謂不久。賜 (1／2) 以貢物、不可謂不渥。

nememe gūnin i cihai cisu be (XXa－6／XXb－1) yabume, ejen i baili be jempi cashūlafi (1／2) tuwahakū be, geli niyalmai mujilen bi seci (2／3) ombio.
反ってますます思いのまま勝手に私を行ない、君主 [ejen] の恩を心深くに沈めて悪事をはたらき、背いて顧みなかったことは、なおも人の心があるといえるのか。
而乃恣 (2／3) 意行私、忍負君恩而不顧。尚 (3／4) 得謂之有人心哉。

cisu be unggirakūci ojorakūngge (3／4) uttu nikai. tuttu oci, cisu be (4／5) unggire de adarame ohode sain.
私心を去らせることができなかったことは、この様であったのであるぞ。そのようであれば、私心を去らせることに対してどのようにしたらよいのか。
私之不可 (4／5) 不去也、如斯矣。然則去私當 (5／6) 奈何。

hendume, isheliyen (5／6) mujilen be wembume, silhingga mujilen be geterembume, (XXb－6／XXa－1) urhu mujilen be tob obume. dergi de damu (1／2) ejen de tondoi faššara. fejergi de damu (2／3) irgen de gūnin sithūre. goroki oci amaga jalan i (3／4) tondo leolen de olhoro. hanciki oci emu (4／5) beye i gebu jurgan be hairara ohode, terei (5／6) amala, wesihun abka de girurakū, fusihūn (XXIa－6／XXIb－1) niyalma de yerterakū, ejen i baili de karulame (1／2) abkai fejergi de tusa obuci ombi.
説くのに、「狭い心を徳化し、嫉妬の心を浄化し、偏った心を正しくし、上に対してはただ主 [ejen] に忠義をもって尽力する、下に対してはただ民に専心する、遠くであるならば後世の公平な論議に対して畏れる、近くであるならば一身の名誉や節義を愛しむようであれば、その後に、上は天に恥じることなく、下は人に愧じることなく、君 [ejen] の恩に酬い、天下に益をなすことができる。」と。
曰、化乃褊心、袪乃忌心。(XIVb－6／XVa－1) 正乃偏心。上惟効忠於主、下 (1／2) 惟加意於民。遠則畏後世之 (2／3) 公評、近則愛一身之名節。然 (3／4) 後仰不媿於天、俯不怍於人。(4／5) 足以酬君恩、而有益於天下。(5／6)

amban (2／3) oho urse ginggulemе gūni. (3／)
臣となった者たちは、慎んで考えよ。
爲人臣者、其愼思之。(XIV b－6／)

……

(／XXI b－4) aisi de dosire be leolehengge. (4／5)
利に走ることについて論じたこと。
(／XV a－1) 狗利論 (1／2)

aisi i niyalma de jobolon ojorongge amban kai. (5／6)
利が人に禍をなすことは甚大なものであるぞ。
利之禍人甚矣哉。

julgeci ebsi amban oho niyalmai gebu efujefi (XXI b－6／XXII a－1) erdemu gukufi beye bucehe uksun suntehengge, gemu (1／2) erei haran.
古来、臣となった者が名を失墜し、徳を喪失して、身を滅ぼし、一族郎党が滅亡したことは、全てこの事情から出たものである。
古來人臣 (2／3) 之敗名喪德、亡身覆宗、蔑不 (3／4) 由此。

jang ioi i dorgideri ulin nadan (2／3) isabuha. yuwan dzai i tuleri ulin gaime yabuha. (3／4) wang žung ni sibiya jafafi buyarame bodoho. (4／5) ši cung ni ulin isabufi bayan be temšehengge. (5／6) ememungge tere erin de wabuha, ememungge (XXII a－6／XXII b－1) amaga jalan de basucun werihe.
張禹は内に貨財を貯め込んだ。元載は外で貨財を取ろうとした。王戎は謀略に走って事細かに画策した。石崇は貨財を貯め込んで豪勢さを競った。ある者はその時に殺された。ある者は後世になってから嘲笑されるべきものとして扱われ続けることになった。
如張禹之内殖貨財、元 (4／5) 載之外通賕賂、王戎之執籌 (5／6) 會計、石崇之聚賄爭豪、或被 (XV b－6／XVI a－1) 僇於當時、或貽譏於後世。

tuttu ofi (1／2) šu ging de, ulin de dosire be targabuhabi. (2／3) ši ging de, dosi niyalma be wakašahabi. lu (3／4) boo, jihai enduri leolen arahabi. ts'ui liyei, (4／5) teišun wa ehe seme basubuhabi.

aisi de (5／6) targaci acarangge julgeci ebsi tuttu kai. (XXⅡb－6／XXⅢa－1)
この故に、『書経』では、貨財にのめり込むことを戒めている。『詩経』では、貪欲な者をせめている。魯褒は銭神論を作っている。崔烈は銅臭いと嘲笑されている。利においてまさに戒めるべきことは、古来、このようであるぞ。
故 (1／2) 書儆殉貨[2]、詩刺貪人[3]。魯褒致 (2／3) 論於銭神、崔烈見嘲於銅臭。(3／4) 利之當戒、自昔然矣。

gūwa hendume. aisi adarame niyalma de, uttu jobolon (1／2) ombini, hendume, aisi serengge jurgan i bakcin, jobolon i (2／3) adaki kai.
別に説くのに、利はどのようにして人にこのように禍をおよぼすことができるのか。説くのに、利というものは、義と一対の相反するもので、禍の隣にあるぞ。
或曰、利 (4／5) 何以禍人至此哉。曰、利也者、(5／6) 義之反而害之隣也。

aisi de dosi urse, terei (3／4) mujilen de tebufi gūnin girkūfi, yamji cimari (4／5) kicere bodorongge damu aisi teile. amba oci, (5／6) ini holo yohoron i gese buyen be cihai (XXⅢa－6／XXⅢb－1) sindafi, buyarame fun eli be funceburakū.
利に走る輩は、その心に居すわらせて、思いを専らにして、晩も朝も精一杯考えているのは、ただ利のことばかり。大きいことであれば、その山か谷のような欲を思うままに解き放して、些細な分・厘についてはあとに残さない。
狥利之 (XⅥa－6／XⅥb－1) 徒、其處心積慮、昕夕圖維者、(1／2) 唯利而已。大則縱其谿壑之 (2／3) 欲、而細不遺夫錙銖。

gūnin (1／2) emgeri elgiyen tumin de urhuci, uthai (2／3) niyalma de isibure fulehun akū. geli beye be (3／4) gocime, baitalara be kemneme, gebu jurgan be ujen (4／5) obure mujanggao.
思いが一度、もっともっと豊かになりたいことに偏れば、たちまち人に及ぼす情けなどなくなり、かつまた自分を愛し、用いることに画策し、ただただ名節や義理を重いとするだけなのである。
念一注 (3／4) 於豐腴、而遂不復有及人之 (4／5) 惠。豈更能卑躬約己、以名義 (5／6) 爲重哉。

tuttu ofi buyen cihalan (5／6) eteci, oori gūnin liyeliyehun ofi, goidara (XXⅢb－6／XXⅣa－1) amba ojoro kicen be farhūdafi, bodorongge (1／2)

yasai julergici tucinderakū.
この故に私欲が勝れば、深遠な意志に迷いを生じて、長い時間を経るごとに大きくなる勉励さを見失って、熟慮したことが目の前からすぐに出せなくなる。
是故、嗜慾勝、則神智（XVI b－6／XVII a－1）昏。昧久大之圖、而計不出乎（1／2）眉睫。

tuktan de inu（2／3）faššara sithūre gūnin akūngge akū. emgeri（3／4）aisi de duribure jakade, uthai tuwakiyan（4／5）waliyabufi. hanja girutu akū ojoro be,（5／6）hairandarakū baimbi.
初めに、これまた、尽力し専心する志がなかった者はいない。ひとたび利に奪われることによって、たちまち守るべきことを捨て去って、清廉で恥を知る心が無くなってしまうことを惜しむこともなく、求めてしまうのである。
其始也、亦未嘗無砥礪（2／3）之志。而一爲利奪、即頓喪其（3／4）所守、不惜寡廉鮮耻以求之。（4／5）

embici arga jali be（XXIV a－6／XXIV b－1）faksidame tulbifi, jalan be eitereme ini gejurere（1／2）gasihiyara de acabumbi.
あるいは、陰謀術策を巧みに施して世を欺き、その搾取して漁り取ることをやり遂げる。
或機械巧設、欺世以遂其侵（5／6）漁。

embici kokirakū oshon be（2／3）balai isibufi, ai jaka be nungneme ini dosi（3／4）gamji be yabumbi.
あるいは、残虐な行為を好き勝手に加えて、どのような物についても侵害し、自分の内に貪り取ることを行なう。
或殘虐横加、戕物以行其（XVII a－6／XVII b－1）饕餮。

aisi be kiceme goidaha（4／5）manggi. gasacun isarangge urunakū šumin be sarkū.（5／6）
利に励んで久しく経ったのちには、怒りによる怨みの集まることが必ず深くなるのを判っていない。
不知罔利既久、叢怨必（1／2）深。

geren i leolen de baktambuci mangga sere anggala,（XXIV b－6／XXV a－1）han i fafun de urunakū guweburakū.
多くの論において受入れられるのが難しいというのみならず、王［han］の法度

においても絶対に許されることではない。
既衆論之所難容、必王章（2／3）之所不貸。

udu dartai （1／2） gurun i fafun ci ukcafi, tehei booi ulin be （2／3） karmacibe, abkai doro jalu be ibiyambi. ambula （3／4） isabuci jobolon be udambi. bayan elgiyen de （4／5） enteheme bahafi jirgambio.
たまたましばらくのあいだ国の法から逃れられて、貯まった家の貨財を護ることができたとしても、天道はこうしたことが極限まで至ることを忌み嫌うのである。とてつもなく多く貯め込めば禍を買う。豊かさが余りあることを永く享受して安楽に過ごせるであろうか。
即令偶逃國憲、坐（3／4）擁家貲。而天道忌盈、多藏賈（4／5）禍。詎得長享富厚哉。

ai, emgeri beye be （5／6） waliyatai amban oho kai.
ああ、一度は己を捨てて臣になったのであるぞ。
嗟嗟、既（5／6）己委身爲臣矣。

gūnime tuwa, han i （XXV a－6／XXV b－1） beye de afabuhangge antaka ujen. tanggū （1／2） halai beye de ererengge antaka šumin.
考えてみよ、朝廷［han］が己に委ね任せてきたことの如何に重たいかを。百姓が己に望むことの如何に深いかを。
試思朝廷之（XⅦ b－6／XⅧ a－1）所以任己者、何其重。百姓之（1／2）所以望己者、何其殷。

jai daci （2／3） beyei gūnihangge antaka goro amban. keb seme （3／4） damu aisi be faršambime, geli dere šehun （4／5） niyalmai jalan de ilici ombio.
また、はなから自分の眼鏡に適った者は如何に遠大であることかを。親しみ近付くことがただ利をかけたことのみではまた、顔が晴れ晴れとした人生に立つことなどできようかと。
與夫生（2／3）平之所以自許者、何其遠且（3／4）大。而孳孳焉、唯利是遂。尚堪（4／5）靦顔立於人世耶。

terei mujilen be （5／6） bodoci, damu emu beyei ergere jirgara be （XXV b－6／XXVI a－1） kicerengge. emu erin i horon algin

be nemšerengge. (1 ／ 2) amaga jalan de fulu elgiyen be werirengge. (2 ／ 3)
その心をひも解いてみると、ただ、己一人が安楽に暮らそうとして励んでいることばかりで、一時の名声や評判を競っているだけのことであり、後代の子孫に余りあるほどの富を留め置きたいだけのことである。
度其心、不(5 ／ 6)過圖一己之逸豫耳。博一時(XⅧ a － 6 ／ XⅧ b － 1)之聲勢耳。貽後人之饒裕耳。(1 ／ 2)

ergere jirgara sebjen, dorolon jurgan i wesihun de (3 ／ 4) teherembio. horon algin i taka wesihun, weile gung ni (4 ／ 5) enteheme de teherembio. fulu elgiyen be werire (5 ／ 6) anggala, bolgo šanggiyan be werici elhe kai. (XXⅥ a － 6 ／ XXⅥ b － 1)
安楽に暮らす喜びは、礼節や仁義の上に置くものであろうか。名声や評判のごく僅かに上であって、罪や功が不朽であることの上に置くものであろうか。余りあるほどの富を留め置くよりは、清廉潔白を留め置く方が心安らかであるぞ。
夫逸豫之樂、孰與禮義之高。(2 ／ 3) 聲勢之浮榮、孰與事功之不 (3 ／ 4) 朽。貽以饒裕、孰若貽以清白 (4 ／ 5) 之爲安。

tere anggala tuksicuke be yabume, haksan be (1 ／ 2) feliyeme, bahara de dosi elecun akū, beye be (2 ／ 3) ehe obure, boo de jobolon oburengge. eleme nakame safi, girurakū jobošorakū, beye be (4 ／ 5) bolhomifi boo be karmara ci geli antaka. (5 ／ 6)
そればかりか、恐ろしいことを行ない、凶暴なことに走り、得ようとして貪ることに飽き足りることなく、己を悪くし家に害をなすことは、満ち足りて止めることを知って、恥知らずで憂い苦しむこともなく、己を浄化し家を護ることと比べて、また如何なものであろうか。
且蹈危履險、貪得無 (5 ／ 6) 厭、离於而身、害於而家。又何 (XⅧ b － 6 ／ XⅨ a － 1) 如知止知足、不辱不殆、以潔 (1 ／ 2) 其身、而保其家也。

tuttu ofi han gurun i amban dung jung šu i (XXⅥ b － 6 ／ XXⅦ a － 1) heduhengge, facihiyašame ulin aisi be kiceme, (1 ／ 2) kemuni mohoro wajire de olhorongge, geren niyalmai (2 ／ 3) gūnin. facihiyašame gosin jurgan be kiceme, kemuni (3 ／ 4) irgen be wembuci ojorakū de olhorongge, daifu (4 ／ 5) hafasai gūnin.
この故に漢国の臣であった董仲舒が説いたことには、「無理に慌てて財利を追い求め、常に窮乏して終わることを恐れている者は、衆人の思いである。無理に慌

てて仁義を追い求め、常に民を徳化できないことを恐れている者は、大夫［daifu hafasa］の思いである。」と。
故漢臣董（2／3）仲舒有言、皇皇求財利、常恐（3／4）乏匱者、庶人之意也。皇皇求（4／5）仁義、常恐不能化民者、大夫（5／6）之意也。[4]

ainu daifu hafan i tušan de（5／6）ofi, geren niyalmai yabun be yabumbini.
何故に大夫の職務にあって、衆人の行ないを行なうのか。
奈何居大夫之位、而（XIX a－6／XIX b－1）爲庶人行哉。

tere anggala（XXⅦ a－6／XXⅦ b－1）ujulaha amban bolgo akū oci, fejergi be（1／2）yarhūdaci ojorakū. buya hafasa urunakū nantuhūn（2／3）ombi. buya hafan bolgo akū oci irgen be（3／4）dasaci ojorakū. an kooli urunakū efujembi.（4／5）
それどころか、頭に立つ大臣が清廉でなくなれば、下の者を善導することができなくなり、小臣は必ず貪り汚れるようになる。小臣が清廉でなくなれば、民を治めることができなくなり、風俗は必ず崩壊してしまう。
且大臣不廉、無（1／2）以率下、則小臣必汚。小臣不（2／3）廉、無以治民、則風俗必壊。

jergi jergi fusihūn gejureme gaime nakarakū oci,（5／6）sui urunakū tanggū hala de tušambi. jobolon（XXⅦ b－6／XXⅧ a－1）kemuni gurun boo de isinambi. taifin i dasan be（1／2）erehe seme bahaci ojorakū kai.
次々と下方に累を及ぼし、苛酷に取ることを止めないならば、害は必ず百姓に及ぶ。禍は必ず国家に到る。太平の政を望んだとしても得ることはできなくなるぞ。
層（3／4）累而下、誅求勿已。害必加於（4／5）百姓、而患仍中於邦家、欲冀（5／6）太平之理、不可得矣。

aisi sere（2／3）gebu de niyalma jailame sarkūngge akū.
利という名に対し、人が避けることを知らないことはない。
夫利之（XIX b－6／XXa－1）爲名、人莫不知避。

te emu（3／4）niyalma be toome, si aisi de dosi seme（4／5）hendume tuwa. tere urunakū cira aljafi alime（5／6）gaijarakū kai.
今、一人を罵り、「お前は利に走れ。」と言ってみよ。かの者は必ず顔色を変えて

受け入れないぞ。
今試詬一（1／2）人曰、汝狥利、彼必艴然不受（2／3）也。

aisi be sahade geli angga（XXⅧ a－6／XXⅧ b－1）fusihūlambime mujilen saišambi. akūci mujilen tere（1／2）waka be sambime, buyen de dalibufi, beye yabume.（2／3）hendume bi taka gaiki, ainahai uthai jobolon（3／4）ojoro sembi.
利［の目前にあること］を知ったときには又、口では軽蔑しながら心では羨ましがる。そうでなければ、心ではその非を知りながら、欲に目が眩んで身は事を行ない、語るに、「吾はとりあえず取ることにしたい。どうして立ちどころに禍になるだろうか。」という。
及其見利、又往往口鄙而（3／4）必羨之。或心知其非、蔽於欲（4／5）而躬蹈之。曰、吾姑取焉、未必（5／6）遽至於害也。

oilorgi bolgo dorgi dusihiyen（4／5）ningge ambula be geli ai ferguwera ba bi.（5／6）tuttu aisi de dosire jobolon be dahūn（XXⅧ b－6／XXIX a－1）dahūn i leolehengge, aisi de dosi urse be（1／2）hing seme gūnifi hūsutuleme halakini serengge kai.（2／）
上辺は清廉でも内実は濁りきっているような者が甚だしく大勢を占めることについては又、どのような珍しい所があろうか。故に、利に走る禍について幾度となく繰り返し論じたことは、「利に走る輩は懸命に考えて、一所懸命に変わるがよい。」ということであるぞ。
又奚怪乎清文（XXa－6／XXb－1）濁質者之比比哉。故反覆乎（1／2）狥利之害。令貪利者、靜思而（2／3）力改之耳。（3／）

【註】

(1)『論語』「衛霊公第十五」には「子曰、君子疾没世而名不稱焉。」とある。
(2)『書経』「商書」の「仲虺之誥」には「惟王不邇聲色、不殉貨利。」とある。
(3)『詩経』には該当する例が散見しているため未詳。
(4)『漢書』巻五十六「董仲舒傳・第二十六」には「夫皇皇求財利常恐乏匱者、庶人之意也。皇皇求仁義常恐不能化民者、大夫之意也。」とあり、このうちの「皇皇」について唐の顔師古は「皇皇、急速之貌也。」と注を付している。

（東洋史学専攻・教授）